

BEST AVAILABLE COPY

[特許] 2003-522332

[受付日] 平成17.12.13

1

【物件名】

刊行物 3

【添付書類】

10 208

刊行物 3

④ 日本国特許庁 (JP)

⑤ 實用新案出願公開

⑥ 公開実用新案公報 (U) 昭60-80717

⑦ Int. Cl.  
A 45 D 34/04  
40/26

識別記号  
6871-3B  
6871-3B

⑧ 公開 昭和60年(1985)6月5日

審査請求 未請求 (全1頁)

⑨ 考案の名称 ベースト状化粧料用容器

⑩ 実 願 昭58-173136

⑪ 出 願 昭58(1983)11月10日

⑫ 考案者 多比堅 春代 東京都中央区日本橋3丁目6番2号 株式会社小林コーポ  
ー内

⑬ 考案者 小木 胡男 東京都中央区日本橋3丁目6番2号 株式会社小林コーポ  
ー内

⑭ 出願人 株式会社 小林コーポ 東京都中央区日本橋3丁目6番2号

⑮ 實用新案登録請求の範囲

(I) ベースト状化粧料を収容する口紅型状収容体の上部に蓋布面を形成し、該蓋布面の中央部に開口部を穿設し、  
(II) かつ、前記口紅型状収容体の基部に台座を回転自在に連結し該台座に蝶子杆を立設して前記口紅型状収容体内に起立せしめ、該蝶子杆に可動受皿を媒介してなるベースト状化粧料用容器。

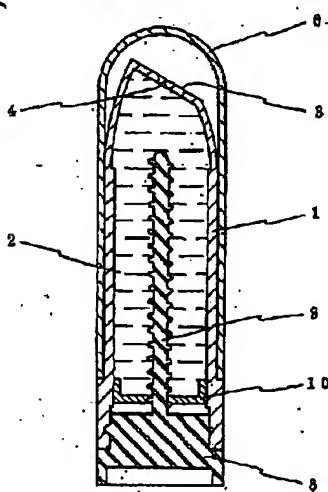
器。

図面の簡単な説明

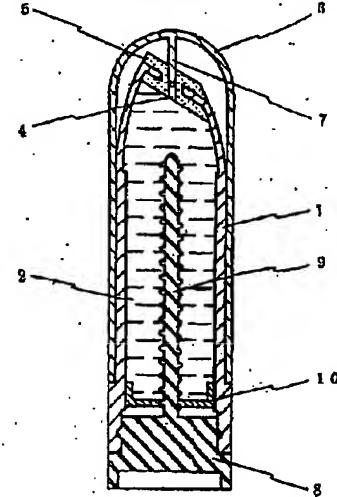
第1図は本考案の一実施例の横断面図、第2図は他の実施例の縦断面図である。

1……口紅型状収容体、2……ベースト状化粧料、3……蓋布面、4……開口部、6……台座、  
7……蝶子杆、9……可動受皿。

第1図



第2図



**公開実用 昭和60- 80717**

①日本国特許庁(JP)

②実用新案出願公開

③公開実用新案公報(U) 昭60-80717

④Int.Cl.<sup>1</sup>A 45 D 34/04  
40/26

機別記号

府内整理番号  
6671-3B  
6671-3B

⑤公開 昭和60年(1985)6月5日

審査請求 未請求 (全頁)

⑥考査の名称 ベースト状化粧料用容器

⑦実 国 昭58-173136

⑧出 国 昭58(1983)11月10日

⑨考案者 多比羅 春代 東京都中央区日本橋3丁目6番2号 株式会社小林コーポレーション

⑩考案者 小木 胡男 東京都中央区日本橋3丁目6番2号 株式会社小林コーポレーション

⑪出願人 株式会社 小林コーポレーション 東京都中央区日本橋3丁目6番2号

3

## 明細書

## 1. 考案の名称

ペースト状化粧料用容器

## 2. 実用新案登録請求の範囲

(i) ペースト状化粧料を収容する口紅型状取容体の上部に塗布面を形成し、該塗布面の中央部に開口部を穿設し、

(ii) かつ、前記口紅型状取容体の基部に台座を回転自在に連結し該台座に蝶子杆を立設して前記口紅型状取容体内に起立せしめ、該蝶子杆に可動受皿を締合してなるペースト状化粧料用容器。

## 3. 考案の詳細な説明

本考案は、ペースト状の口紅・アイシャドウ・ファンデーション・美容液・ほほ紅等の容器に關し、その意図するところは、本考案を利用し携帯性・使用性に富んだペースト状化粧料用容器を提供するものである。

従来、ペースト状化粧料の容器形態としては、キャップにより密封した瓶体もしくはチューブ体がその殆どであった。それ故、消費者がペースト

1

# 公開実用 昭和60- 80717

4

状化粧料を使用する場合、筆もしくはスポンジチップ付筆等を必要とし、化粧に手間がかかり不便であり、この点の改善が切望されていた。加えて、通常の瓶体、キャップ体にあっては、形状的に新味に乏しく、消費者の多様な嗜好に答えるには不充分であった。

本考案者らは斯る点に鑑み、従来製品に類を見ない斬新な形態と優れた携帯性、使用性を有する容器を得んとして鑑意検討の結果、本考案を完成するに至った。すなわち、本考案は、ペースト状化粧料を収容する口紅型状収容体の上部に塗布面を形成し、該塗布面の中央部に開口部を穿設し、かつ、前記口紅型状収容体の基部に台座を回転自在に連結し、該台座に螺子杆を立設して前記口紅型状収容体内に起立せしめ、該螺子杆に可動受皿を締合した使用上便利なペースト状化粧料容器を提供するものである。

以下、本考案の構造をその実施例を示す図面に基づき説明する。

1はペースト状化粧料2を収容する口紅型状収

2

131

5

容体であり、その上部に塗布面3が形成されている。4は該塗布面3の中央部に穿設された開口部であり、口紅型状収容体1内に収容されているペースト状化粧料2が外部に押し出される塗出口である。

また、第2図に示す如く塗布面3に開口部を有する弾性塗布体5を覆設すれば、ペースト状化粧料2の塗布がより容易かつ便利になる。弾性塗布体5の塗布面3への覆設方法は、貼着方法、嵌着方法等その手段を問わない。

6はキャップであり、口紅型状収容体1に着脱自在に嵌着している。また、第2図に示す如くキャップ6の内面中央部に、閉蓋時に塗布面3中央部の開口部4を封止する気密用ボス7を突設すれば、機器時に於けるペースト状化粧料2の開口部4からの漏泄を完全に防止できる。これは、ペースト状化粧料2が流動性の高いものであったり、揮発性の高いものであるときには特に有効である。

8は台座であり、口紅型状収容体1の基部に回

**公開実用 昭和60-80717**

6

転自在に連結している。また、台座8の上部中央には蝶子杆9が立設されており、口紅型状収容体1内に起立せしめられている。さらに、蝶子杆9には可動受皿10が嵌合されている。可動受皿10は、口紅型状収容体1内に嵌合内装され、台座8の回転により回動を阻止されて昇降自在となっている。この回動阻止手段は、例えば、口紅型状収容体1と可動受皿10とに凹凸条等を設置して嵌合することにより行なわれる。

なお、口紅型状収容体1を透明な樹脂等で成型すれば、収容されているペースト状化粧料2の色が外から見えて視覚的な美感が得られ、またペースト状化粧料2の残量も確認できるので便利である。

ペースト状化粧料2の充填は、口紅型状収容体1の上部の開口部4から充填すればよい。また、開口部4の大きさはペースト状化粧料2の粘度及び種類並びに一回の使用量等の条件により適宜選択すればよい。

本考案は以上の如く構成したので、これを使用

7



する場合、キャップ6を外し、台座8を回転して可動受皿10を上昇させ、ペースト状化粧料2を口紅型状収容体1上部の開口部4から塗出させ、塗布面3もしくは弾性塗布体5にて化粧操作を行なうことができる。

以上詳述した如く、本考案のペースト状化粧料用容器は、従来の管状あるいは、チューブ状のものに比して、その携帯性、使用時の簡便性が遙かに優れ、外出先等での化粧が非常に便利になる。

すなわち、従来、ペースト状化粧料を塗布する場合、筆もしくはスポンジチップ付筆等が必要であったが、本考案を利用すれば容器から直接使用部位に塗布できるので便利である。さらに、本考案は口紅型状に形成してあるので、塗布面3にて容易に線や面を描いたり、ペースト状化粧料2をのばしたりでき、形状による違和感も全くない。また、縁出容器でもあるので、ペースト状化粧料2の量を調節することも容易である。

#### 4. 図面の簡単な説明

公開実用 昭和60- 80717

8



第1図は本考案の一実施例の縦断面図、第2図  
は他の実施例の縦断面図である。

- 1 …… 口紅型状取容体
- 2 …… ベースト状化粧料
- 3 …… 塗布面
- 4 …… 開口部
- 5 …… 台座
- 6 …… 螺子栓
- 7 0 …… 可動受皿

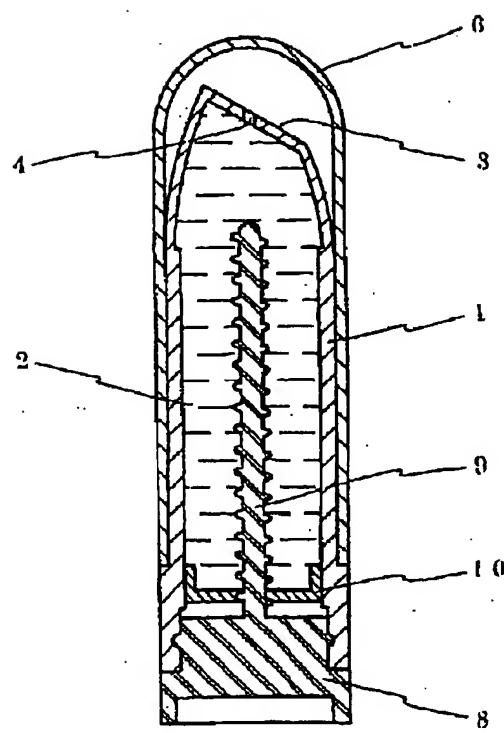
以 上

出願人 株式会社 小林コーポ

9

## 図面

第1図



136

実開2003-522332

10  
公開実用 昭和60- 80717

第 2 図

